

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

現在会員数
59年7月 168名
逗子地区 300名
葉山地区 65名
大船地区 (533名)
(合計)

59年7月号 (144号)
発行 者 萃 岳
根 岸 岳 集
編 村 愛
中

あらためて知る

詩吟の奥深さ

星山支部 池田 延山

昭和十五・六年、戦時中私が軍隊に入隊する前、海軍航空技術廠に勤務中、昼の休み時間によく詩吟が放送されておりました。そして其の当時はうわの空で聞き流しておりました。

昭和五十五年の夏、黒崎先生が教場を開く事になり、詩吟を習いませんかと誘われ、難しい事はないと云う自覚がありましたので、入会させていたゞきました。

入会者は十名位でしたが、全員が初心者で、加藤先生並びに黒崎先生より、細かい注意事項が説明され、いざ吟題、海南行の練習に入りましたが、間合のとおり方、音位の変化、余韻の引き方等、ひとつひとつ難しい事ばかりで、全員顔を合せて苦笑の連続でした。簡単に思っておりました私は、こんな難しいものであったか思い知らされました。黒崎先生は一詩をものにすれば、他の吟もそれに付随して出来る様になりましたと言われ、一生懸命練習いたしました。昭和五十六年三月、初段の査定を受け、二段、初伝を、そして今年三月中伝を受けさせて戴きました。詩吟の重さ、奥深さ、

詩の心、心身に伝わってくる様です。

星山支部も結成されて未だ日は浅いのですが、現在十五名で活気に満ちております。六月三日の温習会には、合吟コンクールに若手五人をはじめ出場させていたゞき、入賞には及びませんでした。元気で合吟出来た事は、今後の為、踏台として望みが出来た事と思われれます。

週一回の教習ですが、支障の無い限り出席させていたゞき、練習に励まさせていたゞいております。若手の者に負けないよう皆と一緒に頑張るつもりでおります。どうか諸先生の御指導を宜しくお願いいたします。

(全国選抜者吟道大会)

とき 59年7月22日(日)

ところ 読売ホール

(県本部30周年記念吟道大会)

とき 59年7月29日(日)

ところ 県民ホール

(総本部主催夏期吟道講座)

とき 59年8月4日(土)5日(日)

ところ 労音会館・電通会館

(県本部主催中国友好の旅)

とき 59年8月18日より九日間

旅程 北京・成都・西安・上海他

総本部理事長に

松井岳洋先生再任

去る六月九日、総本部総会に於て、松井岳洋先生が理事長に再選されました。

県本部役員に

常盤本部長以下全員再任

去る五月十三日、県本部総会に於て、役員全員が再任となりました。

県本部長	常盤 岳湘
副本部長	新田 岳悠
相談役	根岸 岳萃
相談役	松井 岳洋
"	長谷川 岳聖
"	諸留 岳城
監事	石渡 岳道
"	長谷川 岳声
総務理事	草野 岳穰
"	覚張 岳環
"	宮崎 岳義
"	安孫子 岳晴
"	岡嶋 岳風
"	蒲谷 岳景
審査委員長	新田 岳悠
副委員長	草野 岳穰

事務局長

横須賀 次長

第一地区長

第二地区長

京浜地区長

湘南地区長

庶務部長

許証担当部長

教務部長

企画部長

広報部長

経理部長

青少年部長

庶務副部長

教務副部長

広報副部長

県本部理事に

留任 (傾心会より)

左記九名の方々がひきつづき留任となりました。

岡嶋 岳風	沼田 洸岳
中島 岳湖	下條 亮岳
大森 真岳	竹石 憲岳
加藤 岳相	千葉 香岳
高橋 岳濤	秋元 梁岳
橘川 岳浄	
鹿島 久岳	
佐藤 岳統	
毛利 岳雨	
立平 敬岳	
増田 岳厚	
佐藤 岳昭	
加藤 馨岳	
(以上常任理事)	
加藤 圭岳	
千葉 劔岳	
中村 愛岳	
(傾心会より)	

県本部三十周年

記念吟道大会迫る

とき・59年7月29日(日)9時30分

ところ・県民ホール(関内駅下車徒歩15分)

傾心会より左記出吟(演)の参加があります。

合成 偶成	西岡ようこ他(少)
" 北海道巡遊中作	広瀬翔風他
" 城山	鈴木孝岳他
独吟 長安主人の壁に題す	千葉劔岳
" 三宝鳥	加藤圭岳
合吟 九月十三夜	沼田洸岳他
" 山行同志に示す	三井雲岳他
構成吟 石橋山懐古	舞 杉本恵山
より	" 白井麗風
"	" 大石春風
"	" 小林紫風
"	吟 高梨邦風(町田)
"	大沢常風(〃)
"	舞 高橋ゆき子
"	" 磯村朋風
"	安田寿風

練吟メモ

◇吟道大会に列席したある有名人が「名調子の吟詠を聞きながら、この吟者は詩の内容がわかっているのかしら、と思うことがある」と（吟道）に感想を述べていた。その吟法が詩文の内容に合っていないとか、詩語のアクセントに間違いがあることなどを指しての言葉ではないかと推察される。

◇吟詠上、節調に支障を感じる場合は、アクセントを変えるのもやむをえない、とする流派がまだまだ残っているようである。

このように、節調を大切にしようとする心情もわからないではないが、そのような節調偏重の行き方は、音楽教育の進んだ新しい世代には、とうてい受け入れられない考え方ではないかと思う。

◇吟詠会機関誌等の情報によると、この数年來、吟詠上の心得として「詩心」の理解とその表現が厳しく要求されて来た。理解ということとは、詩文の解釈についてはもちろんのこと、詩の生れた時代の背景とか、作者の置かれた環境とかをわきまをえなくてはならないということである。

◇昨今のように舞台上で吟ずる機会が多くなると、単なる趣味だからということです

まされなくなる。大勢の人様に聞いていただくとなれば、やはり十分勉強し、吟じ込んだ上でなくては失礼千万なことである。◇詩心を感じない吟は、どの詩もみんな同じに聞える。たゞ高調子に吟ずるだけでは、かえって反対効果を生じる。人の心に訴えるためには、詩文の一字一語を明確に伝えなくてはならない。例えば五言絶句の場合、作者は二十字の中に心魂を注いで作詩している。従って吟者は、作詩者と同じ気持ちになって、一字一語を大切に吟ずべきであり、アクセントの間違いなどは絶対に許されるはずのものではないかと思うのである。

色はにほへど散りぬるを

わが世たれだ常ならむ

有為の奥山けふ越えて

浅き夢見じ酔ひもせず（作者不詳）

「いろはうた」として知られる七五調四句の今様形式の歌。同一文字が重ならないように作られている。弘法大師空海の作と伝えられてきたが、根拠はない。「にほふ」は照り映える意。「有為」は恒常不変ならざる無常の世。

（朝日新聞折々のうた・大岡信より）

俳句

天曇る 葉桜ごしに 慰霊塔

葉桜の 木蔭において 乳母車

結界の 夏影深き 古将墓

うっとして 僧の墓あり 木下閣

竹林の 木もれ陽ゆれる 夏の冷え

雨の日の 祠をかくし 花うつぎ

長雨の 木苺いつか 垣に熟れ

点々と 蛇苺あり 造成地

去り難き 実家の跡地の 濃あじさい

診療を 待つ間も雨の 濃あじさい

（愛岳）

（移籍）

188 阿部葵風 大船Aより真澄支部へ

（入会）

655 大河原はる 逗子市池子二一九一―一五

（逗子A）（電）〇四六八―七三―四六七五

656 野崎弘子 逗子市久木八―一七―三三

（逗子A）（電）〇四六八―七三―五二七四

（退会）

462 鈴木幸山（横警）

◎ おねがい

詩吟に関する記事を何なりとお寄せ下さい。その他、短歌・俳句等もどうぞ。